

## 子どもの安全について

校長 渡島 正広



5月に奄美地方は梅雨に入り、ひと雨ごとに暑さが増してくるようになります。蝉の声も校舎に響いてきました。6月には水泳の授業も始まりますが、この時期には、海や川に出かけて水遊びをする子どもも増えてきます。

この時期になると笠利で小学生が沖に流された事故のことや瀬戸内で親子で釣りをしていた子どもが波にさらわれた事故のことが思い出されます。過去には、徳之島でも貝採りをしている深みにはまり、親子が亡くなるという事故もありました。

今年の大連休の頃にも、佐賀県でボート遊びをしていた高校生が溺れて亡くなりました。また、小学生や幼い子どもが海や川で溺れたという痛ましいニュースもありました。毎年、全国での水難事故の犠牲者は900人前後います。事故の多くは、海や河川で起きており、遊泳中や川遊び・釣りをしている中で事故が多いようです。

このような事故は、普段から慣れ親しんでいる海や川での遊びだからという油断もあったのかも知れません。静かに見える海でも急に人やものを沖へ引っ張っていく離岸流という流れも発生することがあります。自然に対する気の緩みやいつもやっていることだからという気持ちが事故につながります。

大和小の校区内には監視員が常駐するような指定された海水浴場はありませんが、家族や友人たちといっしょに遠出をして大浜海浜公園やフォレストポリスなどで水遊びをすることがあると思います。海や川に出かける際は、自分たちが子どもの頃にやったことだからという気持ちは取り除いて、事故の可能性を考え、救助の手立てや連絡先等も考えて子どもたちの水遊びを見守っていただきたいと思います。

学校では夏休み中にプール開放をしますが、そのため、監視にあたる保護者の心得として心肺蘇生法の訓練もあります。また、水泳の授業の中で、着衣水泳等の訓練も行っています。心肺蘇生法の訓練などは、水難事故に限らず、いろいろな場面で役立つものですので、ぜひ参加していただきたいと思います。

子どもたちの「安全」を考えると、夏は水の事故が心配ですが、本校の場合はハブの咬傷や交通事故も心配です。

水難事故、ハブの咬傷、交通事故などに気をつけ、子どもたちが安心して生活できる環境づくりと指導を続けてまいります。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。

### 【6月の行事予定】

- 2日(月) 研究授業(道徳:5年)
- 3日(火) □腔衛生教室  
(1年と保護者:5時間目)(2年~6年:6時間目)
- 4日(水) 人権集会
- 5日(木) 不審者対策避難訓練  
眼科検診
- 25日(水) 児童総会
- ※ 60・90運動(16日~22日)

## やっぱり最高の思い出~修学旅行~



村内4つの小学校合同による修学旅行が、無事に終了しました。平川動物公園の雨は、大変だったようですが、それでも小学校生活最大のイベントと言ってよい修学旅行、充実した旅行であったことは、子どもたちの表情を見ればわかります。ふだん味わえない体験活動(火おこし&NHK&科学館など)やめったに見聞きできない学習(平和会館や動物公園など)、知識も経験も大きく成長したことでしょう。それぞれの学校の5・6年生です。この経験が、それぞれの学校で生かされること間違いなしだと思います。

同時期に行われたのが、春の一日遠足です。1年生から4年生まで、赤崎公園まで行ってきました。学校では、見られない遊具があるからでしょうか。「いっときもじっとしていないで、みんな遊び回っていましたよ。」とは、引率の先生の話。お家の方が作ってくれたお弁当もさぞかしおいしかったでしょう。笑顔いっぱい遊ぶ子どもたちを見て、「晴れて良かった(前日午前中まで雨)」と思わずにはいられませんでした。



一生懸命遊ぶ。ことを誓います。(春の一日遠足)

## オオキンケイギクの駆除活動

5年生の総合的な学習の時間に「奄美大島の外来種」について調べる活動があります。「なぜ外来種が奄美に増えたのか」「これから自分たちはどんなことに気をつけていけばよいか」などを考えます。今回、野生生物保護センターのスタッフの方々の協力の下、外来種である「オオキンケイギク」の駆除活動を行いました。その時期になると、必ず奄美の新聞等にも掲載される話題です。戸円校区内にあるオオキンケイギクが、今回のターゲットです。難しい作業を何とかがんばったようです。以下子どもたちの感想です。

- どうして奄美に外来種が来たのか理由がわかった。「(オオキンケイギクを)ぬくのはかわいそうだけど、奄美のためだから」という気持ちでやりました。奄美大島が、もっと自然にあふれる島になるよう協力できるようになりたいです。(女兒)
- オオキンケイギクを見たとき、「かわいい花だな」と思った。根から取らないといけなかったので、けっこうつかれました。これからも、外来生物の駆除をしていきたいです。(男児)



たがでれでんするフ茎ばたの子がりてでん、まも大と途し、変切中